

昭和57年3月20日発行

第九四号

編集 馬路村教育委員会
発行 馬路村教育委員会
印刷 安芸印刷



広報

うま

2月末の人口

世帯数

六八八

男

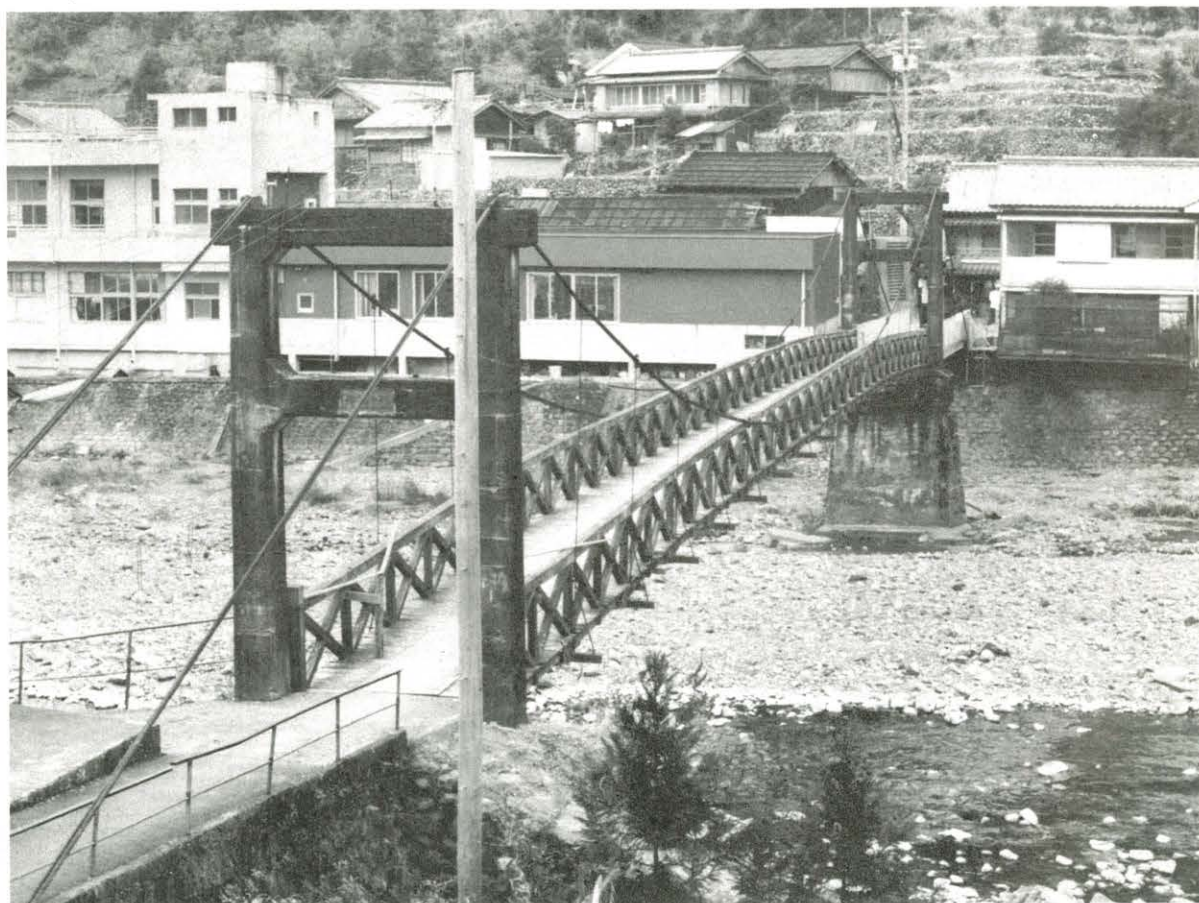
九二二人

女

八七七人

計

一七八九人



↑ とり壊される前の杉の瀬橋

馬路村唯一の 木製吊橋消える 杉の瀬橋改良

昭和十三年に架設され、中央橋が架橋されるまで影、日浦を結ぶ幹線として、長く住民に親しまれ、利用されてきた杉の瀬橋がこのほど解体されました。

架橋以来数回にわたって改修はなされてきたものの、橋台、橋脚、主索ワイヤー等は架橋以来のものであり、木橋では将来共に改修の必要もあり、その維持が困難であるため、永久橋とするものです。

今や馬路地区では、唯一の木橋吊橋で、村民ばかりでなく、村外の方からも、「せめて橋脚、主索ワイヤーだけでも残せたら……」と、惜しむ声もありますが、技術的な困難性があり、原型は完全になくなってしまいます。

なお、計画では、幅員二・三mで、軽四輪以上は通行規制されます。

工事費は二千六百六十万円で、完成は五月末になる見込みです。

月間

SPOT

≡ 1 月 ≡

- 4 日 官庁御用始
- 5 日 馬路診療所医師歓迎会
- 6 日 消防出初式
- 8 日 村内小・中学始業式
- 12日 金林寺護摩祈禱
農協魚梁瀬支所落成
森林組合安全祈願祭(於就改センター)
- 12日～13日 歯科巡回診療(於就改センター)
- 14日 部落長会(於就改センター)
- 15日 成人の日
- 16日 馬路小タコ上げ大会
- 20日 村内校長会(於就改センター)
- 24日 村内囲碁大会(於魚公)
- 25日 人権相談所開設(於就改センター)
- 26日 乳児検診(於馬路・魚梁瀬)
農業委員会(於就改センター)
文化財防火訓練(於金林寺)
- 30日 馬路中校内駅伝
(魚梁瀬中・役場チームオープン参加)
- 31日 馬路婦人会環境美化活動(久木花壇周辺清掃)

≡ 2 月 ≡

- 2 日 臨時村議会
- 6 日 魚梁瀬小・中校内マラソン大会
- 9 日 中芸地区保健婦ブロック会(於就改センター)
- 11日 建国記念日
- 13日 馬路の教育を考える日
(馬小・敬老参観 馬中・一日先生ほか)
- 15日 部落長・各種団体連絡会(於就改センター)
- 16日 馬路消防団全国消防協会表彰祝賀会
(於就改センター)
- 17日 物部村社会教育委員会及び文化財調査委員会来村
馬路小・魚梁瀬小合同授業研修会(於馬路小)
地域農政推進協議会(於就改センター)
乳幼児歯牙検診(於魚公)
- 19日 魚梁瀬 P T A 教育講演会(魚公)講師横川遊亀寿先生
- 21日 市町村対抗駅伝(馬路村チーム総合で22位)
- 22日 幼児教育振興協議会・県内先進地視察(夜須町ほか)
納税相談(於就改センター)
- 23日～24日 安芸郡市婦人会研修会(於コミセン)
- 24日 魚梁瀬中 P T A 懇談会(於魚公)
- 25日 魚梁瀬小芸能発表会
- 27日 一年生の母親教室(於工芸センター)
- 28日 森林・農協総会



↑ 1 月12日金林寺護摩祈禱

→
一月二十六日
文化財防火訓練
金林寺薬師堂



↑ 2 月13日馬路の教育を考える日
馬中一日先生



↑ 2 月15日部落長、各種団体連絡会

↓ 2 月19日魚梁瀬 P T A 教育講演会



小径木製材工場本年中に操業開始

従業員十一名で

年間素材二・五〇〇m³

昭和五十五年より新林業構造改善事業が開始されましたが、五十六年度に新たに国産材加工施設整備事業（製材施設・加工施設・補助事業費一三七、五〇〇千円が認定され、現在、工場建設など進行中です。

計画によると、昭和五十六、五十七の二ヶ年事業で九月頃から操業予定です。

事業主体は、馬路林材加工協同組合（中小企業等協同組合法に基づく事業協同組合）で、馬路村森林組合、馬路村農業協同組合、馬路木材（株）、魚梁瀬木材（株）の四団体による協同組合です。

役員構成等は次のとおり決定、発足しています。

- 理事長 雨木 義郎
- 副理事長 中村 重信
- 専務理事 井上 満
- 常務理事 尾谷 周三
- 一般理事 四名
- 監事 二名
- 出資金 六、〇〇〇千円

国産材加工施設のねらい

本村は林業に対する依存度が極めて高く、林業の盛衰が村の盛衰に直結しているともいえる経済環境

境にあり、林業の振興を村是と定めています。

昭和五十三年度第二次林業構造改善事業で設置された小径木処理施設（事業主体は馬路村森林組合）は、特に商品価値の低い小径木（5cm〜9cm）を対象とする丸棒加工を行い、昭和五十三年十月操業開始以来製品の開発研究、販路の開拓などの企業努力によって経営基盤が確立されつつあります。

昭和五十四年度は丸棒製品二三、〇〇〇本（原料丸太約三五〇m³）、五十五年度は四〇、〇〇〇本（約六二〇m³）と順調な伸びを示しています。

国産材加工施設の概要

計画の内容	説	明
工場の位置	高知県安芸郡馬路村	大字馬路字西張2107の20
工場建物	製材工場	1棟 690m ²
	木工場	1棟 609m ²
	管理棟	1棟 43m ²
	計	3棟 1,301m ²
設備機械類	製材部門……	ツイン帯のこ盤・ローラーバンド・皮剥機・集塵装置・搬送設備外7台
	集成部門……	自動一面鉋盤・乾燥機・自動片面糊付機・コールドプレス外1台
	トラック・フォークリフト等	
消費原木	2,500m ³	
生産計画	角類等 1,620m ³	
	集成材製品 380m ³	

一方、森林組合は、昭和五十六年度以降、国の間伐促進総合対策事業の制度導入による民有林五〇〇haの間伐事業の実施を計画しており、これによって素材生産量に占める間伐木の比重は高くなってくる見込みです。

そこで、これらの間伐木のうち九cm下、一、〇〇〇m前後を前記の森林組合小径木処理施設により丸棒加工品の生産を行うと共に、今回の新林業構造改善事業による加工施設により十cm上二、五〇〇〜三、〇〇〇mの素材から製材品及び集成材製品を生産し、今後増大する間伐等小径木の合理的有効利用を図り、林家所得の増大とともに本村の林業振興に寄与することをねらいとしています。



↑ 建設進む小径木製材工場

組合職員計画		性別区分		計
職名		男	女	
常務理事	1	—	—	1
専務理事	—	1	—	1
計	1	1	—	2
工場長	1	—	—	1
目立機・係	1	—	—	—
皮はぎ・原木係	1	—	—	1
製材係	1	—	—	1
ローラーテーブル係	1	1	—	2
結束係	—	1	—	1
乾燥・プレス・雑役	1	2	—	3
計	5	4	—	9
合 計	6	5	1	11

高木メリヤス

高知工場閉鎖

魚梁瀬で唯一の縫製工場（婦人用下着縫製）、高木メリヤス高知工場（本社・奈良県橿原市）は十一年間、直営工場として、魚梁瀬地区の主婦達の雇用源として親しまれてきましたが、不況下における輸送コスト高、能率向上のため

役場税務係から

軽自動車税は今まで、住民税、固定資産税、国保税とを集合課税してきましたが、軽自動車の月割課税、還付がなくなったことから、四月一日現在の所有者にその年度分の課税がされる事になったのでこの税を集合課税から除き、4月課税となりましたのでお知らせいたします。



↑ 職場を失った人たちはどうなるのだろう

の工場近代化等の理由で、三月二十日をもって事業閉鎖されることとなりました。

現在、パートを含め二十一名が従事しており、村としても、地元住民に及ぼす影響が大きいため、議会と共にその対策を検討していますが、非常に困難な問題であり、先行きが憂慮されています。

シートベルト着用推進の村宣言！

村民会議・村議会でも決議

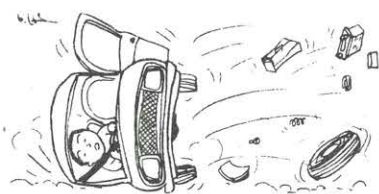
昨今の交通事故の特徴として、自動車乗員の死亡者比率のアップがあげられていますが、このことは乗員保護対策と共にドライバーの安全意識の高揚が重要な課題となっています。

シートベルトの果たす役割は

大きく、「衝突時の乗員保護」と「疲労軽減、動体視力向上、安全意識の向上などによる事故防止」等があげられています。

特に危険箇所の多い本村における万一の事故対策のためにも是非必要なことです。

交通安全村民会議では、すでにチラシ等を配付、村民に徹底



本県の交通事故発生状況

区 分	件 数	死 者	傷 者
昭和56年	424	7	503
前年同期	324	5	393
増 減	+ 100	+ 2	+110
増減率(%)	+30.9	+40.0	+28.0

をはかっていますでしたが十分でなく、三月三日、安芸警察署、交通安全村民会議会長、交通安全協会馬路・魚梁瀬両分会長、交通指導員、各種団体代表者等が協議し、『シートベルト着用推進の村宣言』を決定しました。

村長（村民会議会長）は、三月定例議会冒頭に議会並びに村民にこのことを訴え、広く村民の理解協力を求めました。

また、議会でも、三月十二日、同様の決議を行い、村ぐるみとなりくむこととなりました。



→3月3日交通安全協会・安芸警察署等協議会

推進員を設け 追跡調査も…

同村民会議・交通安全両分会等では、具体的な推進方法を検討していますが、現在、次のようなことが予定されています。

『立看板を三ノ四カ所設置』
『ステッカーを村内全車両に配付・貼布』のほか、各種団体、各事業所に推進員を設置し、この運動の徹底を図ると共に追跡調査など、実態調査も行つことにしています。

新入学（園） の季節です

子どもを交通事故から守ろう

道路にいきなり飛び出してくる子どもにハッとさせられることがよくありますが、子どもは時としておとなが想像もつかないような行動をとり、事故につながることも少なくありません。子どもを交通事故から守っていくためには、まず、次のような子どもの特性を十分理解する必要があります。

一、子どもは一つのことには注意が向くと、周りのものは目に入らなくなる。

二、子どもは物事を単純にしか理

解できず、考え方も自己中心的になりがち。自分が黄色い旗をあげれば、車は必ず止まってくれるものと思い込みがちである。

三、子どもは、応用的な動作ができない。いつも通る道では交通ルールは守れるが、知らない道では守れない。

四、子どもは、「あぶないよ」とか、「注意しなさい」というような抽象的な言葉だけではよく理解できない。具体的な行動を通じて理解させる必要がある。

五、子どもは、おとなや年上の子のまねをする。

六、子どもの視点はおとなより低い。駐車中の車などがある場合、おとなには先を見とおせても、子どもには見えないことがある。

心がけていますか？!!



村定例表彰

馬路村表彰規則による定例表彰は三月十二日、個人四人、団体一と伝達されました。

受賞者の今後の「健勝と活躍をお祈りします。」

表彰者は次のとおり。

個人表彰

教育関係

高松真一氏（六十三歳 安田町）

昭和三十年から馬路小・中学校、昭和四十四年から魚梁瀬小・中学校の学校歯科医として児童生徒の健康維持増進に尽力された。

杉山逸男氏（四十九歳 魚梁瀬）

昭和三十五年五月から馬路村教育委員として本村教育の振興に功績があった。

地方自治関係

小松賢次氏（六十七歳 影）

昭和三十五年五月から馬路村選挙管理委員として適正な選挙管理執行、啓発活動に努められ、地方自治発展に功績があった。

国見正助氏（七十九歳 日浦）

昭和四十六年七月から日浦部落長として地域の振興に尽力され、



高松 真一氏



杉山 逸男氏



小松 賢次氏



国見 正助氏

村勢発展に功績があった。

団体表彰

馬路村消防団

規律厳正にして一致団結、地域の消防・防災活動に努力され、特に定期演習は他市町村から称賛を得ている。

全国町村会・県町村会

永年勤続功労表彰

このほど、村収入役、永吉仁志さん（五十六歳）と、魚梁瀬支所長、萩野卓さん（四十五歳）の二人が全国町村会、高知県町村会より永年勤続功労表彰（二十五年以上在勤）を受賞しました。

収入役は、昭和二十七年三月から村吏員となり、二十八年四月から三十一年九月まで教育長、五十

年一月に収入役就任、現在に至っています。

また、支所長は、昭和三十年六月に村吏員となり、五十二年四月から支所長就任、現在に至っています。



永吉収入役



萩野支所長

馬路村

児童生徒表彰

馬路村児童生徒表彰規則による定例表彰は、恒例により、各々の学校の卒業式で授与されました。（伊吹君については、三月二十二日の予定）

本年度の該当者は次のとおりです。

精勤賞（義務教育課程九か年で欠席五日以内）

馬路中 南 真紀 西野由紀 魚梁瀬中 萩野真理 千島千佳

功績表彰（文化、体育等の向上発展に関し、特に功績顕著な者）

馬路中 吉松 正博君



吉松 正博君

吉松君は、中学生生活を通じ、スポーツ活動に優れた成績をあげ、特に、本年度、安芸郡市、中芸地区の陸上競技大会の短距離走ではすべて第一位を占めました。殊に昨年七月の県下通信陸上での百メートル走での記録（12秒0）は県下第一位、中芸大会における11秒9、安芸郡陸上選手権大会での同じ11秒9の記録は、いずれも新記録で、めざましい活躍をされました。

馬路中 村岡 志郎君



村岡 志郎君

村岡君も吉松君と同様、中学生生活を通じ、スポーツ活動に優れた成績をあげられ、特に中芸、安芸郡の陸上大会において、走り中跳びでいずれも第一位、十一月の県下陸上選手権では、記録5メートル89で第二位に入賞するなど、立派な成績を収められました。

馬路小 伊吹 幸憲君



伊吹 幸憲君

伊吹君は、九月十日、中芸小学水泳記録大会で50メートル自由型34秒2、同じく百メートル1分20秒8でいずれも第一位、この記録は郡下第一位に輝くもので、特に50メートルの記録は、県下第二位に相当する記録であり、特筆されるものです。

第一回 馬路村囲碁大会

第一回馬路村囲碁大会が、一月二十四日に魚梁瀬公民館で行なわれ、十三名の方が二ゾーンに別れて対局し、優勝横見定良さん（日浦）二位、清岡万寿夫さん（影）三位、笹岡保さん（朝日出）という結果でした。



入学式

ふるさとへのたより

広報うまじでは、『ふるさとへたより』というコーナーを設けており、仕事などの関係で故郷馬路村を遠く離れて生活をしている方から、家庭の状況など近況をお知らせいただき、掲載させていただいております。

本号では、高知市在住の萩野薫さん、兵庫県川西市在住の岡田嘉男さん、大阪府寝屋川市在住の川村土佐男さんからお便りをいただきました。

ふるさとによせて

懐かしい故郷の便りを載せて「広報うまじ」がグリーンの封筒で届いたのは昨年十二月十七日、ちょうど私は十年余の住み慣れた福井町から現在の朝倉本町二丁目（高知大学南）に転居した翌日でした。足の踏み場もないガラクタ道具や荷物の中で、何はともあれ開封、うれしく拝読致しました。

ふるさとは年を取る程に懐かしさが増してくる様です。村でのいろいろな行事や催物が収録されており、特に紙面で知人の写真などを見るにつけ……。この人もずいぶんと年を取ったなあ、と己れの年取っている事をさておいて……。それもそのはず、指折り数えてみれば

高知市に住むようになっていつしか四十数年にもなっているわけで光陰矢の如し、とは全くよく言ったものです。

魚梁瀬育ちの私は昨年の夏「ダム湖水祭りフェスティバル」へ、ふるさとの無い家内（高知市生れ）を連れて一泊で出かけ、久方ぶりのお祭り気分が満喫でき、また、何十年ぶりかであった友人・知人等と青年団の主催するビアガーデンで杯を交わし、旧交を温める事ができ、本当に楽しいひとときが過ぎました。今年も是非、行きたいと思っております。

ところで、村出身の高知市在住者で毎年開いております馬路会については、私当初からお世話させていただいてありますが、特に五十四年、五十五年と二回の懇談会には、小松村長さんはじめ、村議会の方々、また、有志の方々のご参加をいただき、また、コミセンでの懇談会、馬路行では観光バスの提供や数々の温いご配慮を賜りこの紙面を拝借して御礼申しあげます。

高知市在住の皆様方、昨年は休みましたが、今年はまた、機会をみて開催しますのでよろしく……。全員の参加をいただき、よりよい馬路会であり、また、楽しいふる

さと会として発展して行くことを祈ります。

高知市朝倉

萩野薫（魚梁瀬出身）

ふるさとさん こんにちわ



私と同じ職場に勤務している馬路村出身の同僚です。左から私、清水、昇です。

私が馬路中学校を卒業して就職のために、今は無き、森林鉄道で馬路を発ったのは昭和三十年三月末のことで、あれからもう二十七年になります。

自分の今まで生きて来た歳月からいえば、馬路での生活は約三分の一ながら、ふるさと馬路のことが一番よく記憶にあるといえそうです。

尼崎市に約十五年、そして現在は川西市に十二年住んでいますがおかげで阪神間の地理も少しは解ってきました。

仕事は、久保田鉄工尼崎工場に勤務しております。

多くの方々に、農機具メーカーとして知られてる会社だと思えますが、私共の勤める工場は製鉄所で使うインゴット・ケース、ロー

ル、家庭風呂の一種のホーロー風呂、最近では自動車メーカーのシリンドラー・ライナー等、ほとんど馬路では見ることのない製品を作っています。

私の現在の職場は研究部で、新製品開発の一員として働いていますが、新しい実験準備の電気配線中に、端子が「ニチフ端子高知工場製」に気付き、同僚に「これは、俺の田舎の家のすぐ近くで作られたものだ。」と話した事もあります。自分の生まれ育った東川部落で作られた製品を使って実験機器を組み立てるとは予想外の事でした。

当工場には馬路から五名入社しましたが、現在は、私の他、清水勤、昇雅彦の二人が元気に勤務しております。

それにしても、昭和三十年からいえば、馬路の人口も約半分になり、私の級友の半分以上は馬路にいないいま、土地そのものは知っていても住む人々の半分以上は見知らぬ他国の人々となり、「ふるさととは遠くにありて想うもの」の感じ……。

とは言っても年二回以上は馬路に帰っていることですし、昔からの顔見知りの人々もいます。

『広報うまじ』が届き、時々知人の消息が載っていると、「おっ！ やっているな」と思ったりします。猪牧場ができたとか、最近馬路もだいぶ、変わりつつある姿が

この広報でわかり、今後とも、編集者の広い視野での取材を、楽しみにしています。

兵庫県川西市

岡田 嘉男

ふるさとの みなさまへ

馬路のみなさん、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。いつも「広報うまじ」を懐しく、そして楽しく読ませていただいております。

このたびは貴重なスペースをさき、誌上でごあいさつさせていただく機会を与えて下さり、ありがとうございます。

郷土を出て三十年も過ぎますと、せっかく帰省しても一泊二日のパターンで限られた身内の者と顔を合わせるが精一杯で、懐しい皆さんとは、なかなかお会いする機会を持てません。遠く離れていてもふるさと馬路とは疎遠になりたくないという気持ちがいつも心の中にありながら、なかなか思うに任せず、もどかしく思っています。そうした私の気持ちを和らげ、私と馬路を結ぶ「絆」となってくれるのが「広報うまじ」であります。

馬路営林署にお世話になって八年目、当時の駐在さんの竹林さんのふとしたアドバイスが縁で大阪府警に入ってもう三十年になります。

す。おかげさまで、これといった実績はありませんが、馬路の名を汚さない様がんばっています。

今の勤め先は、大阪城のお堀端にある府警本部の少年課です。

「承知のように、今、少年非行は戦後三回目のピーク期といわれ、全国的に増加しているため、その対策は国民的課題として論議されており、まことにやりがいのある仕事として微力を尽くしております。」

現在、住んでいる所は、大阪と京都を結ぶ京阪電鉄の沿線で、香里園というところです。『交通安全祈願』で有名な『成田不動尊関西別院』の近くで団地住まいをしています。

家族は、安芸市出身の妻と、京都の大学に通っている長男との三人暮らしですが、おかげさまで、みんな健康に恵まれ、平穏な毎日をお過ごししてもらっています。

人間、五十歳の坂を越えますと、子どもの頃と同じように、やはりふるさとの山河が恋しくて、定年後は馬路の近くで余生を過ごすことを唯一の楽しみに精出しているところです。

末筆ですが、馬路の皆様のますの「多幸」と、『広報うまじ』のいっそうの充実、発展を祈念いたします。

大阪府寝屋川市

川村 土佐男

伝説散歩

百次ばなし

むかし馬路に百次いうて、そりゃおかしい男がおったそう。ある日の事、友達長サ（長作）と追山（狩獵）に出かけた。

ほいた処が、追い出した猪が、いながら百次の腰にがつぷり、かみついたき、たまらな。

「おい長サ、早うシシを撃つてくれ！早う撃つてくれ！」

いうて、ざまな声でおがったと、ほんで長サが、狙いすまして、ドンと撃つと、シシは一発でバツタリ倒れた。

ほいたら途端に百次、

「長サ、シシヤ、なかま（共同収獲）ぜよ」

いうたそうなが、まっこと抜目がないのう。

またある日のことよ。

百次が猪に行て、猪を撃って皮をはぎよったそう。

ほいたら、いくもんか、目をまわいちゃったがで、猪や、急いで逃げていってしもった。

そのあくる年のこと、百次が猪にいて山道を歩きよると、妙に頭の上の方で、ガバガバという音がするき、何じやろかと思

うて見ると、なんと去年、半分ばあ皮をはいた猪が、又その下に皮ができて、歩きたびにガバガバと鳴りよったそう。

百次のつれあいは、こよしというたそう。

子どもものうて、じんま、ばんばの暮しじゃった。

ほいたところが、百次さん、なかなかの好き者で、年がいても、あの方は衰えさったとみえて、ある晩のこと、

「おばあよ、今夜もママゴトやるかよ」

こう言うて迫ると、こよし婆さん。

「わたしや、いやじゃけんど仕方ない。まあ、やってみようか」

いうて、始めたそうなが、何分にも年がいくちよるもんじゃけ思うようにいかん、爺さんじれて、「おばあ、入ったかや」

「まだ、ママの上でつくなりよる」というと、ぼつちりこの時、納屋へ米盗人が、入っちゃって、大豆の袋の上へ腰をかけて、様子をみよったもんじゃき、ほんとうびつくり仰天、うん逃けたそう。

（はなし 大野 盛）

市原 麟一郎著

『芸西伝説散歩』より

馬路俳句会

千鶴子

松のうち子等の招きの京参り
綿雪の綿に埋もれて金林寺

風花の鼻に舞いこむ寺参り
亀 寿

白鷺の行方は知らぬ水涸れて
買物のずっしり重し寒の餅

春隣り癒ゆる望の少しづつ
善 心

年の暮寺坊で今日もくれにけり
訪れて娘は子を叱る師走かな

冷えこみて庫裡いっばいの隙間風
梨花

悲しみに耐えよ耐えよと雪華散る
すかし彫りの如き淡雪空の青

歳末のざわめき遠き団地かな
雅 子

島紅葉紅葉の入江描く人

ご出産おめでとうございます

父		母		赤ちゃん		続柄		月日		部落	
清岡	福長	とし子	加恵	二女	1・25	二女	1・25	相名	相名	日浦	相名
井上	博俊	典子	恵理	二女	1・27	二女	1・27	中ノ川	中ノ川	中ノ川	中ノ川
萩	雄二	正子	真央	長女	2・8	長女	2・8	中ノ川	中ノ川	中ノ川	中ノ川

ごめい福をお祈りします

氏名		性別		行年		亡月日		世帯主		続柄		部落	
手島	清	男	男	79	1・7	卓司	1・7	魚梁瀬	魚梁瀬	父	父	魚梁瀬	魚梁瀬
大野	高茂	男	男	76	1・23	開作	1・23	下田	下田	父	父	下田	下田
乾	政長	男	男	60	2・22	繁子	2・22	朝日出	朝日出	父	父	朝日出	朝日出
古田	加寿馬	男	男	84	2・22	茂	2・22	相名	相名	父	父	相名	相名

浅くとも俳句に出合い去年今年
歎始めあめつち祈る父なりし

一美

水仙や朝の窓辺の計算機
新小屋の薪の高さや年暮るる

冬されや鉄材を截る向う岸
弥 生

顔洗う孫のはつ泣初水
風ひびき立冬の蝶其処に居り

ひとつまみ添えてなすなの匂いあり
城山子

道の暫しの視界雪螢
峡に降る霰余生と思わんや

戻れない齡のなかの寒椿

戻れない齡のなかの寒椿

戻れない齡のなかの寒椿

戻れない齡のなかの寒椿

戻れない齡のなかの寒椿

戻れない齡のなかの寒椿

戻れない齡のなかの寒椿

戻れない齡のなかの寒椿

戻れない齡のなかの寒椿

戻れない齡のなかの寒椿

みちしるべ

作文

馬中二年 荒木幸子

馬路中に転校してきて、はじめ
て同和問題について勉強してから
先祖がえた・ひにんだった人に対
する私の考え方がかわりました。

二学期まで通っていた千葉県の
学校で社会科の時間に身分制度に
ついて勉強をしたことがありまし
た。その時に先生が、何年か前、
先祖がえた・ひにんの身分だった
子のいるクラスをうけもったこと
があつて、その子がひがみっぽい
性格でずいぶん苦労したという話
しをされました。この話を聞いた
時、私は、先祖がえた・ひにん
だった人はみんなこういうひがみ
っぽい性格なのかときめつけ、そ
ういう人達をけいべつしました。

でも、同和問題について勉強し
てから、こんな考え方をしていた
事がどんなにいけない事だったの
かよくわかりました。差別は自然
にできたのではなく、人間が勝手
につくりだしたものです。えた・
ひにんの身分だった人達は、何も
好きこのんでそんな身分になつた
わけではなく、先祖がえた・ひに
んだった家に生まれてきた人も好
きでその家に生まれたわけではな

いのです。

差別されるのはこういう人達自
身が悪いんだと考え、けいべつし
ている人がたくさんいると思いま
すが、それはまちがいで、差別を
つくりだした人達に責任があるの
ではないでしょうか。先祖がえた
・ひにんであった人の中にひがみ
っぽい性格の人がいたとしても、私
達はその人を悪く言う権利がある
のでしょうか。その人の家に昔、
えた・ひにんの身分だった人がい
たからというだけの理由でその人
をけいべつすることがゆるされる
のでしょうか。差別がどうしてで
きたのか知っていれば、先祖がえ
た・ひにんだった人を悪く言つた
り、そういう身分だったからとい
うだけの理由で平気で差別したり
はできないと思います。

今年中に差別はなくなること
になっていますが、まだまだ差別に
ついてまちがった知識を持ってい
る人がたくさんいると思います。
いくら法律で差別をなくすことを
決めても、一人でもまちがった考
えを持っている人が残っていたと
すれば、差別はなくなつたことに
はならないと思います。

一人でも多くの人が、このこと
について正しい知識を身につけ、
一日でも早く差別が完全になくな
るように、この問題について真剣
に考えていかなければならないと
思います。

ちりが多いな

馬路小五 笹岡昌二

ぼく達は、馬路橋から朝日出橋
までです。ぼくは、県道なのでカ
ンがどっさり落ちているなと思い
ました。

馬路橋に着いて、ちりはあるか
なと見てみると早くもちりがあり
ました。ぼくは、カンを五、六個
とりました。また、もう少し行く
とまたカンがありました。ぼくは
そんなにちりをすてたら、ちりだ
らけになるなと思いました。小屋の
所に来てみると、小屋と道路にカ
ンがどっさりあつて、ぼくは、び
っくりしました。人目のつかない
所にするなんていけない人だな
と思いました。ぼくなら、あきカ
ンなどは、家で、持って帰って
ちり箱にするのにな。

どうしてすてるのかと考えて
みると、ちりを持っていくのが、
ヤヤこしいからだと思います。そ
れと飲んだらすてるくせがついて
いるのだと思います。だから、そ
のくせをなおすといひ。

「えらいふてちゅうなあ。」
とぼくが言うと、ひろこちゃんが
「ほんまよ」

とか言ったりしていた。そしたら
またかえさんが、
「またあつた。またあつた。」
といいながら、つぎつぎ、みぞか
ら出している。ぼくは、ふくろが

だんだん重くなつてもういやにな
つたけど、ぼくのためみんなのた
めなのでがんばつてやりました。

朝日出橋につき、ちりを拾ひ、
ふくろに入れて、重かつたので少
し休んでいると、二班が公園で拾
っていました。

「おーい。」
とよんでみると、手をふつていま
した。ぼくは、こっちへ来んかな、
来たらふくろを持ってもらうのに
なと思いました。でも上の道を帰
つたのでぼくたちもしかたなく帰
りました。

帰りに
「重たい、重たい。」
と言ひながら、馬路橋に着いて上
の道の組といっしょになつて帰り
ました。

これからは、ちりをすててもら
いたくありません。それは、みん
なこまるし、学校みんなが、取
っているのだから、小学校のため
みんなのためのことを思つてす
てないようにしてもらひたいです。

おんちゃん チーム大健闘!

馬路中学校校内駅伝

一月三十日に、恒例の馬路中校
内駅伝大会が行なわれました。

今年は、特別に魚梁瀬中と役場
のおんちゃんチームもオープン参
加、合計十一チームによるデッド
ヒートが展開されました。



おんちゃんチーム奮闘中

役場のおんちゃんチームは「わ
しらあも、まだまだ子どもにや負
けんぜよ。見ちよれよ、まだまだ
走れるきに」と、馬路中に挑戦状
を出し、連日、特訓をし、二チ
ーム出場となりました。

また、生徒数の減少で対外試合
の少なくなった魚梁瀬中も交歓の
意味も含め、特別参加となつたも
のです。

午前十時のスタート、まず第一
区で役場Aチームが飛び出し、続
いて馬中二年Aチーム、役場Bと
続きます。沿道には、たくさん
の応援、例年以上の盛りあがり
をみせていました。

総合順位は、一位、馬中二年B
チーム。二位、役場Aチーム。三
位、馬中二年Aチームの順でした。
村内のスポーツ熱が、これによ
り、ますます高まり、将来は、村
内駅伝の開催までもって行きたい
ものです。

婦人の窓

安芸郡市連合婦人会

宿泊研修行なわれる

二月二十三日、二十四日の両日、コミュニティセンターにおいて、安芸郡市連合婦人会の宿泊研修が行なわれました。

研修会は北川村と馬路村の実践報告から始まり、婦人会活動の重要性、会員意識の向上のためのとりくみについて各単位団から活発な意見が出されました。

特に冠婚葬祭の簡素化には、安芸郡市あげて、各単位団で、気ながにとりくんで行くことが申し合わされています。

夜には、レクリエーションがもたれ、各単位団から歌や踊りが披露され、楽しい交歓会となりました。二十四日も、昼まで熱心な意見交歓が行なわれ、意義のある研修会となりました。



安芸郡市婦人会連合会研修会

―湯の里に
別れを惜しむ花の雨―
参加者のお一人が詠まれた句です。

美しい村づくり

馬路婦人会環境美化活動



久木花壇の除草をする婦人会員

馬路婦人会では、美しい村づくりのために、『花いっぱい運動』と『清掃活動』を行っています。

九月には、村内主要道の沿線のおき缶拾いを行ないましたが、軽四輪トラックに三台分もありました。

一月には、久木トンネル周辺の清掃と花壇の除草手入れを行ないました。

これからも、五十七年度には道路沿いの空地へ花を植えるなど、この活動を続けて行きます。

村民一斉に、『ノーポイ運動』『花いっぱい運動』を推進してゆくことが必要なことだと思います。

祝儀三、〇〇〇円・

不祝儀二、〇〇〇円

―むだをなくする運動にご協力ください―

―冠婚葬祭の簡素化について―

馬路婦人会では、昭和四十八年度から始まった『むだをなくする運動』を続けるなかで、「社会情勢にマッチした金額を：」と再検討した結果、このたび、部落長・各種団体連絡会に提案し、賛同を得ましたので、下記のとおり村民みなさまのご協力をお願いします。

祝 儀

基準 三千元 お返しはいっさいしない。その他、慶事、病気見舞等もこれに準ずる。

不 祝 儀

基準 二千元 葬儀等のお返しは従前どおり。

近親者及び、特別の事情のある場合は例外とする。

教育の窓

馬路の教育を考える日

去る二月十三日、馬路村の教育を考える日として、各種行事が催行なわれました。

午前中は、馬路保育所敬老参観（子どもといっしょに風つくり）、午後は馬路小の敬老参観（授業参観、小学生とのゲーム）、馬路中の一日先生、縄ない講習、就業改善センターでの教育を考える会では、五十余名の方々の出席があり、青少年非行問題を中心に話し合われました。



→馬中縄ない講習

まず、馬路中、松浦教頭から『現在の非行の特徴』、『原因の背景』、



↑馬路保育所風つくり

『馬路での状況はどうなっているか』等について、問題提起があり、続いて話し合いに入りました。

出席した一般の方からは、「馬路の子どもは、中学を卒業し、高校や一般社会に入り、村外に出ると誘惑に負けやすい」「子どもの小遣いに関してだが、自動販売機の普及により、ジュースを買っているのをよく見かけるが、親は何でも買えるよう小遣いを与えているれば、子どもが育つと考えているのではないか」等の意見がありました。

また、学校の先生からは、「民主的な社会に必要な道徳を時間内だけでなく、教科その他の領域でもやっている。保・小・中の連絡会でもそれを大切にしていこうとして夫々の果たす役割（夫々のちがった任務）を大切にしていこうとしている。保は蟬、小は自主的な人間づくり、中は自分の力で立ちあがっていける子という風に、」など、意見が出され熱心な話し合

いが続きました。
村民の教育に関する関心の深さがうかがえる一日でした。

市町村対抗駅伝



出場した選手役員たち

第三十回県下市町村対抗駅伝競走が二月二十一日（日）、室戸市、安芸市間において三十四チーム参加のもとに開催され、馬路村チームも六区間六人全員が日頃の練習成果を十分に発揮して前半区二十九位、後半区十四位、総合二十二位の成績を残しました。
今年、馬路中学校内駅伝への役場チームの参加など健康ジョギング、マラソンブームが目まはき、来季へ向けてのステップになるでしょう。

馬路小学校				魚梁瀬小学校			
氏名	保護者名	続柄		氏名	保護者名	続柄	
小松 孝裕	忍	長男		五百蔵 隆	卓三	二男	
笹岡 卓洋	俊	二男		牛窓 永教	裕介	長男	
橋田 祐二	典弘	二男		牛窓 由教	裕介	二男	
林 義人	勝利	二男		内原 章照	一男	長男	
乾 恵美	求	長女		小原 進	洋一	二男	
乾 未来	朗	長女		山中 武	平	四男	
大野 美幸	慎介	長女		近藤 愛	孝典	長女	
清岡 智子	優子	長女		手島 香織	照雄	長女	
清岡 理奈	敏光	長女		浜口あき子	雄二	長女	
公文 久見	涉	長女		藤枝 真美	義久	長女	
山本真奈美	拓志	長女		湯浅友紀子	雅文	長女	

本年四月に、小学校に入学されるお子さんは次の方々です。

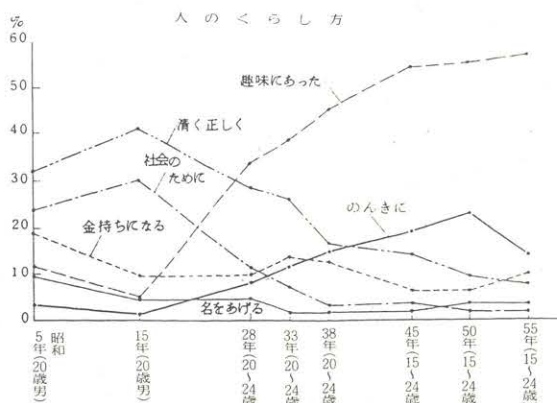
ご入学おめでとうございます

教育相談所だより(6)

家出少年の意識について

一般的に、家出は、それに追い込んでゆく内的、外的な圧力に加えて、本人にその要求の余地があり、そのうえ、家出を実行にうつす直接のきっかけが重なって発生しているようです。

さて、今回は、家出少年と家出をしない一般少年との意識の違いを考えてみましょう。
総理府青少年対策本部編『現代の青少年』の資料、人生観（人のくらし方）をみると、次表のとおりです。



(注) 昭和5年と15年は壮丁検査。
昭和28年～38年は統計数理研究調査
昭和45年～55年は本調査の結果による。

「趣味にあったくらし方をする」が五十六・五％で、次に「その日ののんきに」、「金持ちになる」等がつづいています。

家出少年については、全国的な調査資料はありませんが、ある県の防犯少年課が調査した資料と比

較して考えますと、家出少年の意識の特徴を示すものは、「金持ちになる」、「その日ののんきに」が多数を占めています。

次に、ある県での一般少年・家出少年との意識の違いを表で示してみましよう。

家庭とはどんなところか

分類	計	未記入	その他	遊びやレジャーの拠点	自分の個性をのばす	学校での勉強や職場	夫婦・親子が愛情を	両親に育てられる	単に食事してねると	こいを求める	一家のどんらん・い
%											
家出少年	100%	0.3	2.4	1.3	2.6	8.7	9.5	19.3	25.3	30.6	30.6
一般少年	100%	0.6	1.4	0.4	3.2	9.5	8.7	5.9	6.7	63.7	63.7

「一家のどんらんを求める」ことに對し、家出少年は三分の一に達していません。また、家庭とは、「単に食事をして寝るところ」、さらにまた、「両親に育てられるところ」と考えている者が多いのです。

次に親との話し合いについて考えてみましょう。上の表でもわかるように、家出少年においては非

親との話し合い

分類	いつも話し合う	時々話し合う	話し合わない				未記入	計
			話してもらえない話しても分って	親がうるさい	親がいそがしい	その他		
%								
家出少年	13.5	45.4	18.2	11.1	5.8	5.8	0.2	100%
一般少年	23.1	62.9	4.1	2.8	2.6	4.4	0.2	100%

常に話し合いが少ないことがわかります。また、「話してもらえなかった」、「親がうるさい」と考えている点は、家出の背景や原因の一部になっているとも考えられます。

最後に家出観についてはどうでしょう。家出少年の場合、「何もいざわらず自由」が最も多く、次いで「遊ぶ為の家を出る」という

家出することによって得になること

分類	何もしなければ自由	面白く遊べる	新しい体験	自分の力をためす	別れがつけられる	いいこと、いい仕事	その他
%							
家出少年	48.3	33.0	30.1	24.0	18.5	16.1	4.2
一般少年	28.2	4.7	44.8	37.3	11.2	1.4	2.8

(注) 二つ以上選択の延べの集計、％は100%以上となる

一般の少年は新しい体験や、自分の力を試すことが多くなっています。

しかし、彼らが家出を実行しないのは、今まで考えてきたような点と、彼ら自身が、「家出は家庭に心配をかける」と考えていることなどによるものでしょう。

安易な考え方があるようです。

郵便局だより



お年玉つき年賀はがきの
当せん番号決まる！

お年玉つき年賀はがきのお年玉くじ抽せん会が、一月十五日に、東京大手町の通信総合博物館で行なわれ、当せん番号が次のとおり決まりました。一等 ステレオラジオカセットテープレコーダー
A組、〇八六四九二、各組共通
一三三九三三、八一二一八、八一五六三〇、二等 折りたたみ式自転車 A組下五けた、三〇九五二、各組共通下五けた、八九七四五、三等 手紙セット 各組共通下三けた 二二九、四八二、四等 お年玉切手シート 各組共通下二けた 二三、四三、九五、お年玉の引換期間は、昭和五十七年一月二十日から、同年七月十九日までとなっております。なるべくお早めに引き換えてください。
五十七年度の特殊切手
発行計画決まる。
郵政省では、昭和五十七年度特殊切手発行計画の大綱を次のとおり決定しました。意匠、種類等はそれぞれの切手発行の際追報されます。また発行日は、変更される場合があります、この予定表以外にも発行されることがあります。
発行予定日、五十七年四月二十日
名称、切手趣味週間
五月二十二日、国土緑化運動
五月二十四日、第十六回国際皮膚科学会議記念
六月、近代洋風建築シリーズ第五集
六月二十三日、東北新幹線開通記念
七月二十三日、ふみの日
八月、近代美術シリーズ第十三集
九月、天正遣欧少年使節四〇〇年記念
九月、近代洋風建築シリーズ第六集
十月二日、第三十七回国民体育大会記念
十月十二日、中央銀行制度一〇〇年記念
十一月、近代美術シリーズ第十四集
十一月、上越新幹線開通記念
十二月一日、昭和五十八年賀五十八年一月、近代美術シリーズ第十五集
二月、近代洋風建築シリーズ第七集
三月、国立歴史民俗博物館開館記念
三月、近代美術シリーズ第十六集
広報つき葉書の御利用を。

郵政省では広告つき葉書を毎月発行しております。売価は三十五円です。割安のはがきを是非御利用ください。

ゆずの作業メモ

施肥

樹齢二〜四年生 S八一一号
一本当り八〇g
樹齢五〜七年生 有機化成一号
反当り八〇kg
樹齢八年生以上 有機化成一号
反当り一二〇kg
新植に際しては〔なには有機〕
五本に一袋使用
誘引
二月中旬〜三月上旬 誘引開始
樹齡の基準三年生を定植後二年目から行なう。
防寒
三月に入れば早く除くこと。
植付準備
土作りは三月中旬に終わっておく。
苗木の定植
四月上旬〜中旬
ユズ青果市況
(安芸地区園連からの状況)
昭和五十六年九月〜五十七年二月
数量 一、一七四、九九三kg 前
年比一四二%
金額 四五八、四六七、五六一円
前年比九五%

単価 kgあたり 三九〇円 前年
比六七%
月別市況

月 区分	9月	10月	11月	12月	1月		累計
kg @	802	519	408	343	367		390
前年比	107	76	71	66	46		67
数量(t)	23.6	136.9	271	626.2	117		1.175
前年比	81	146	158	137	153		142

(1.5kg) 1ケース当り 585円

※ kg@は前年比で六七%となっているので、生産者の所得も約三三%減となることが予想される。

馬路村ゆずの振興発展を図るため、関係機関及び農業団体、農家相互の連携を強化し、地区農業経営の安定、農家生活の向上を図ることを目的に、地域の調査研究を行ない、将来のあるべき方向を検討する必要がある。

6年生キコク 台における根 の分布

